2025

株式会社 有沢製作所

環境報告書

ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

ARISAWA

CONTENTS

2025 株式会社 有沢製作所 環境報告書

ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

当社における環境活動 …… 1

経営方針 …… 2

環境方針 …… 2

カーボンニュートラルに向けた取り組み …… 3

SDGs（持続可能な開発目標）に対する取り組み …… 4

推進体制 …… 5

2024年度環境目標・実績および評価 …… 6

環境負荷マテリアルバランス …… 7

2025年度全社環境目標 …… 7

環境負荷物質低減の推進 …… 8

廃棄物の管理 …… 10

グリーン調達 …… 11

環境苦情 …… 11

環境活動 …… 11

環境情報の開示 …… 12

会社概要 …… 13

「2025　環境報告書」の対象範囲

●対 象 期 間　2024年度（2024年４月～ 2025年３月）

●対象事業所　上越本社･南本町工場（含む敷地内アリサワファイバーグラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社）
中田原工場（含む敷地内有沢総業株式会社）
中田原西工場（含む敷地内有沢総業株式会社）

当社における環境活動

2025年10月

株式会社 有沢製作所

代表取締役社長

有沢 悠太

有沢製作所は、経営方針に“社会・環境課題の解決に貢献し持続的な成長を実現する”と掲げ、サステナビリティを意識した経営を進めています。ESG委員会において特定した４つの重要課題（マテリアリティ）は、“脱炭素社会への貢献”“循環型社会の推進”“多様な人材の育成と働きがいの向上”“ガバナンスの充実”であり、これらの達成に向けて日々取り組んでいます。

環境に関わる課題については、ESG委員会、環境保全管理委員会で審議しながら、電気・ガス使用量、産業廃棄物などの削減、有害化学物質の不使用に積極的に取り組み、継続的な改善を進めています。

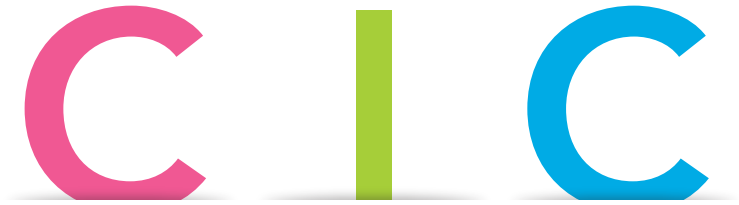
“脱炭素社会への貢献”については、2030年度にカーボンニュートラルを達成する計画を公表しています。2024年度は、再生可能エネルギー電気およびカーボンオフセットガスの購入をはじめ、太陽光パネルによる発電（オンサイトPPA）の開始、J-クレジットの購入、VOC処理装置の廃熱回収によるエネルギー効率改善など、脱炭素化に向けて積極的に取り組みました。これらの活動が評価され、エネルギー管理優良事業者として“関東経済産業局長賞”を受賞しました。

“循環型社会の推進”については、産業廃棄物の再利用・再使用・削減と環境負荷低減製品の開発に取り組んでいます。産業廃棄物に関しては、これまで埋立て処理していたガラス板のリサイクルが可能となりました。当社では、2050年に開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションの達成を目指しています。また、気候変動の抑制、資源の循環を意識した製品を開発することで全ての人々の豊かな生活の実現に貢献してまいります。

本報告書は、2024年度における当社の環境に関する活動をまとめており、当社の環境活動の状況をご理解いただければ幸いです。

今後も「昨日より今日、今日より明日」のスローガンのもと、お客さま、地域社会の皆さまと密接にコミュニケーションをとり、歩みを止めず健全な存続と持続的な成長を実現する事業活動を継続していく所存ですので、当社への変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

経営方針



「創造 Create」「革新 Innovate」「挑戦 Challenge」を基本とし

Ⅰ 新たな価値を創造し、顧客満足度を高める。

Ⅱ 顧客ニーズを掘り起こし、独創的な技術で新事業を創出する。

Ⅲ 品質と生産性を向上させ、企業体質を強化する。

Ⅳ 社会・環境課題の解決に貢献し、持続的な成長を実現する。

環境方針

有沢製作所は、電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料およびディスプレイ材料の開発・設計から製造に至るまでの事業活動全般において、環境に与える負荷の低減に努め環境保全を推進するとともに社会・環境課題の解決に貢献し、持続的な成長の実現を目指します。

1. 当社の事業活動、製品およびサービスが環境に与える影響を把握し、環境汚染の予防に努める。
2. 環境法令、規制、協定および当社が同意したその他の要求事項を順守する。
3. 環境活動の推進にあたり、「環境目標」を設定・実行し、定期的に見直す。
4. 環境負荷の低減に寄与する製品開発、技術開発を行う。
5. 環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。
6. 大気、水質、土壌汚染などの管理を強化し、生物多様性の維持に努める。
7. 省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。
8. 再生可能エネルギー、再生資源を導入し、温室効果ガスの抑制と循環型社会の形成に貢献する。
9. 環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、持続可能な社会を目指して責任ある行動を遂行できるよう啓発する。
10. 内部環境監査、マネジメントレビューを定期的に実施し、環境管理マネジメントシステムの継続的改善を図る。

この環境方針は、社内外に公表する。

制定：２００６年　４月 １日

改正：２０２３年１２月 １日

カーボンニュートラルに向けた取り組み（2024 年度実績報告）

2023 年度に燃料価格の高騰で大きく上昇したエネルギー価格は、2024 年度は比較的落ち着いた状況となりましたが、国の「電気・ガス価格激変緩和対策事業」による補助金が 2024 年4月以降段階的に縮小されたため、上昇傾向となりました。昨年度同様に当社の生産活動、カーボンニュートラルの取り組みに大きく影響を及ぼした年となりました。

カーボンニュートラルに向けた施策ロードマップに従い、計画実行 4 年目である 2024 年度は、目標達成率 54%（2020 年度比）に対して、54.4% を達成できました。

2024 年度の主な取り組み内容

- **再生可能エネルギー電気の購入量増（2023 度比 65%UP、中田原・西工場は、再エネ電気導入率 100% 達成）**
- **カーボンオフセット・都市ガスの購入量増（2023 年度比 41%UP）**
- **2023 年 6 月 19 日より太陽光パネル発電（オンサイト PPA）運用開始**
  2024 年度累計発電量は、167,571kWh（CO_2削減量：78.9t）。オンサイト PPA の拡充検討中。

工場屋根の太陽光パネル

- **太陽光発電システム付ガレージの設置**

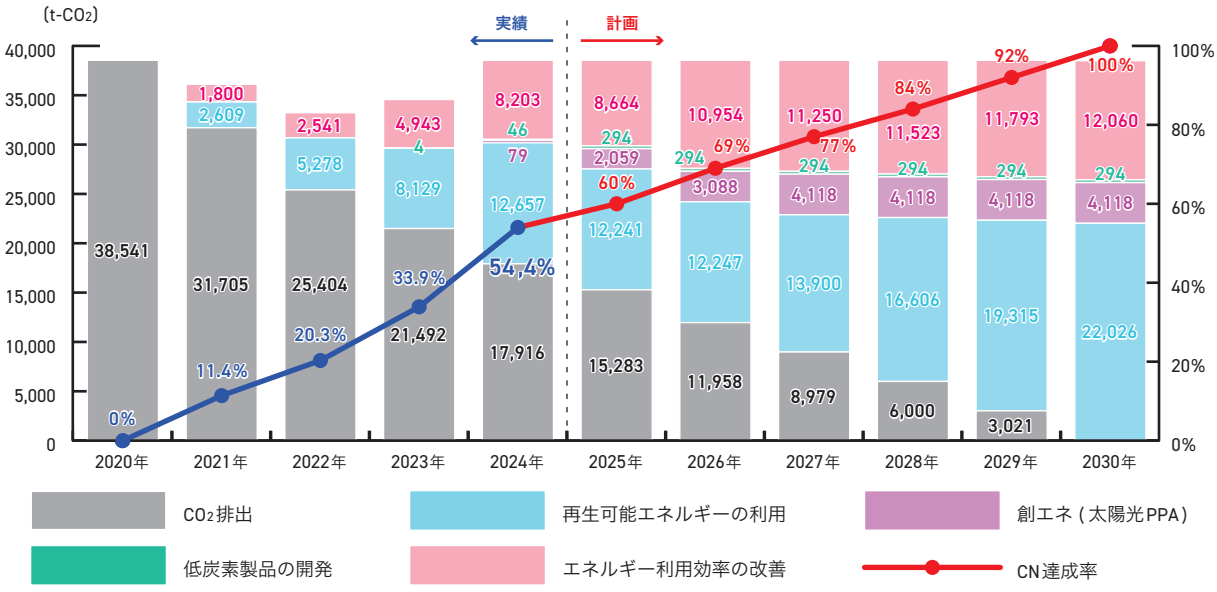
太陽光発電システム付ガレージ

- **地域性の高いJ-クレジットを545t-CO_2分購入（水稲栽培の中干し期間延長によるメタン排出量削減）**
  上越地域の水田から創出されたものを選択的に購入。
- **VOC 処理装置への排ガス処理用セラミック触媒導入決定（当社重要顧客との共同検討）**
- **エネルギー使用効率の改善**
  (ex.VOC 処理装置の廃熱回収、蒸気・エアー漏れ修繕、空調設備・コンプレッサーの効率運転、照明の LED 化)

TOPIC

- **令和 6 年度エネルギー管理優良事業者の関東経済産業局長賞受賞**

目標と実績

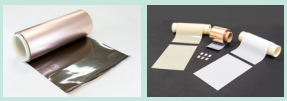
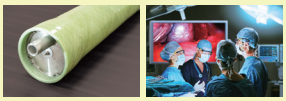
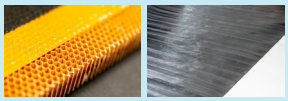


引き続き、エネルギー使用効率の改善に向けた取り組みを拡大展開すると共に、再生可能エネルギーの利用と低炭素製品の開発を進めていきます。

SDGs（持続可能な開発目標）に対する取り組み

環境・社会への貢献

環境・社会に与える影響が大きい課題に関して開発に取り組み、全ての人々が幸せに暮らせるよう、事業を通じて社会貢献を目指していきます。

	気候変動への対応	全ての人々の豊かな生活	資源循環と効率化
01 社会貢献目標			
02 重要テーマと当社の貢献ストーリー	**再生可能・脱炭素エネルギー** FCV、EV、太陽光・風力発電、水素エネルギー関連への材料供給により、CO_2排出抑制に貢献。	**安全・ライフサイエンス** 自動運転支援、水処理、医療分野への材料供給により、人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献。	**省エネ・省資源** バイオマス、リサイクル原料の採用および生産エネルギー削減とモビリティ用軽量化材料供給により、省エネ・省資源に貢献。
03 当社製品	 **電子材料** FPC材料 半導体用絶縁フィルム プリプレグ **産業用構造材料** 電池関連材料 **電気絶縁材料** 放熱材料	 **電子材料** FPC材料 半導体用絶縁フィルム プリプレグ **産業用構造材料** 水処理用FRP製圧力容器 CFプリプレグ **ディスプレイ材料** 3Dディスプレイ	 **電子材料** FPC材料 半導体用絶縁フィルム プリプレグ **産業用構造材料** 水処理用FRP製圧力容器 ハニカムパネル CFプリプレグ **ディスプレイ材料** 3Dディスプレイ
04 関連するグローバル目標			

気候変動への対応

当社は、TCFD*提言に賛同するとともに、賛同企業や金融機関が議論する場であるTCFDコンソーシアムに加盟しています。

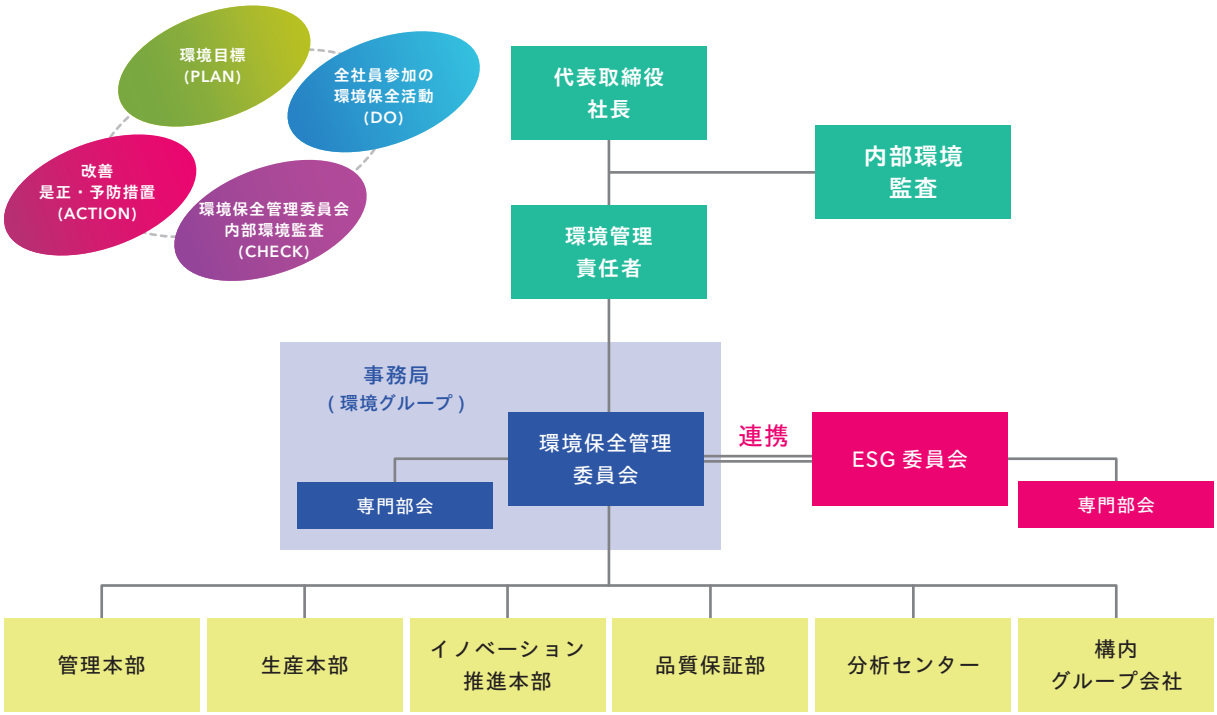
*気候関連財務情報開示タスクフォース

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

TCFD Consortium

推進体制

環境保全活動は、上越市内の 3 拠点（南本町、中田原、中田原西）の工場と構内グループ会社が一体となって推進しています。なお、環境保全管理委員会は、ESG 委員会と連携し、PDCA のサイクルを回して取り組んでいます。



※2023 年 7 月 1 日以降の体制

持続可能な社会を実現するためには、環境負荷の少ない経済システムへと 早期に転換を図っていくことが求められます。今までの天然資源や化石燃料を大量に使用し、工業製品を大量に生産･消費し、そして大量に廃棄する経済システム（直線型経済）から脱却を図ること、そしてこれまでの経済システムでは「廃棄物」と見なされていた使用後の工業製品を「資源」と捉え、再利用 (Recycle)、再使用 (Reuse)、削減 (Reduce) することで資源を循環させる循環経済システムへとシフトすることが求められています。

当社は、これまでも事業活動により発生する排出物・廃棄物について、事業活動を通じ削減、再利用することに取り組んできました。この取り組みを強化するため、専門部会の一つである排出物分科会が中心となって活動しています。

排出物分科会の長期的な目標値

[1] 2050 年までに 2020 年度の産業廃棄物排出量に対して 30% 削減する。

[2] 2050 年までに開発･製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを達成する。

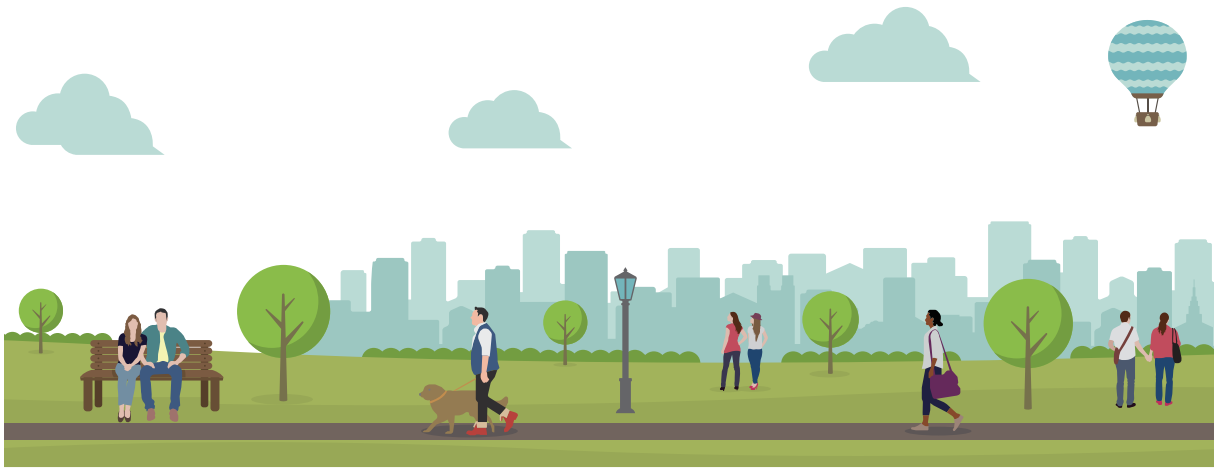
この目標達成に向けて、廃棄物の削減と、現時点ではリサイクルできていない産業廃棄物のリサイクル化を進めていきます。その結果が地球温暖化、天然資源の枯渇や生物多様性の損失の抑制につながることで、社会に貢献しています。

2024年度 全社環境目標・実績及び評価

No	環境目標	目標値	実績	
1	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	技術部の各グループにおいて開発を継続	8件開発を継続	達成
2	既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。	購入材料のSDS、不含有証明等の入手（随時）	214件	達成
3	CSR 調達方針の周知と、CSRが弱い購入先へは取組を働きかける。	CSR アンケートを実施し、環境関係で回答を得た取引先 91 部署の改善要求事項の取り纏め（上期）とフィードバック（下期）の実施	1 月～3 月フィードバック実施	達成
4	新たな環境汚染や健康被害を引き起こさず、生物多様性の維持のために重大な環境法令違反をおこさない。	重大な環境法令違反 0 件	0件	達成
5	①省エネルギー（電気・都市ガスの削減）	①－1　南本町工場の省エネルギー エネルギー量 kL 又は エネルギー量 kL/ 加工高 過去実績比の 1％削減	エネルギー量 kL 過去実績比 4.61％削減 エネルギー量 kL/ 加工高 前年度比 2.3％削減	達成
		①－2　中田原・中田原西工場の省エネルギー エネルギー量 kL 又は エネルギー量 kL/ 加工高 過去実績比の 1％削減	エネルギー量 kL 過去実績比 20.7％ 削減 エネルギー量 kL/ 加工高 前年度比 16.5％ 削減	達成
	②ゼロエミッションの達成 2050年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを行う。	リサイクル率 95％以上の維持	94.8％	未達成
	③産業廃棄物総排出量の削減	2020年度産業廃棄物排出量の 4％削減	2020年度比　14.4％ 削減	達成
6	CO_2 排出量の削減 2030 年までにカーボンニュートラルを達成する。	2020年度の CO_2 排出量の 54％削減	2020年度比　55.0％ 削減	達成
7	① 一般教育訓練の実施 ② 特定業務従事者教育の実施 ③ 雇入れ又は異動者教育訓練の実施	① 各部門年 1 回実施 ② 該当部門年 1 回実施 ③ 雇入れ、異動時	① 実施済 ② 実施済 ③ 随時実施	達成
8	① 環境ボランティア活動の実施 ② 環境報告書の発行	① 年 1 回以上 ② 10 月にホームページ掲載	① 1 回実施 ② 10/31ホームページ公開	達成

環境目標 No.5 ②開発・製造に関わる産業廃棄物リサイクル率 95％の維持の結果が 94.8％となり未達成となりました。

原因は、埋立処理しているガラス板関連製品の生産増によるものです。これを改善するために2025年1月からガラス板リサイクル化を実施し、リサイクル率を改善しています。



環境負荷マテリアルバランス

INPUT

		2024年度	2023年度
◇エネルギー投入量			
燃料	（原油換算）	7,039kL	7,071kL
	○都市ガス	6,062 千㎥N	6,091 千㎥N
	○A重油	0	0
	○LPG	4.0 t	4.0 t
電力	（原油換算）	7,598kL	7,181kL
	○電力	34,086千kWh	32,213千kWh
◇購入品		10,017 t	8,737 t
原材料		9,141 t	7,896 t
うち有機溶剤		561t	572 t
副資材		976t	841 t
◇水資源投入量			
	総投入量	290.5 千㎥	295.9 千㎥
	○上水	94.2 千㎥	94.8 千㎥
	○地下水	196.3千㎥	201.1千㎥

OUTPUT

	2024年度	2023年度
◆CO_2 排出量	19,833t	22,996t
●燃料分	12,671t	12,742t
●電力分	7,162t	10,254t
◆有機溶剤大気排出量		
●PRTR 対象物質	107t	134t
◆産業排出物	1,468t	1,522 t
●リサイクル（再生使用）	1,404t	1,432 t
●埋立処分	64t	90 t

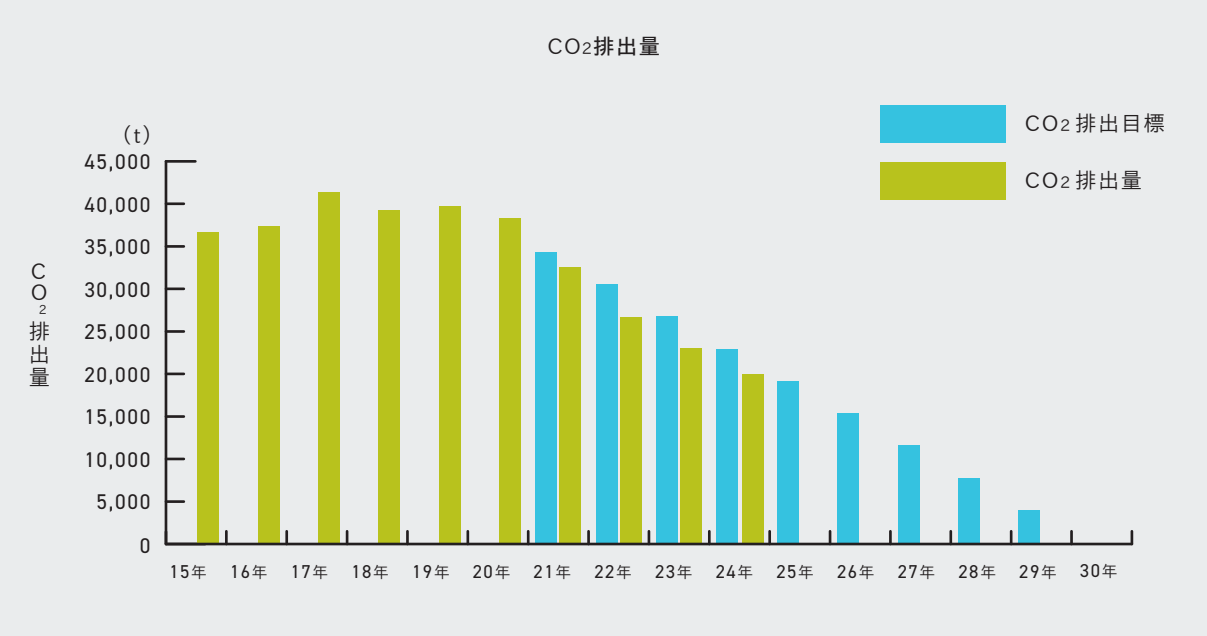
2025年度 全社環境目標

No	環境方針	2025年度環境目標	目標値
1	環境負荷の低減に寄与する製品開発、技術開発を行う。	環境負荷の低減を指向した製品開発・技術開発を行う。	技術部の各グループにおいて開発を継続
2	環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。	① 既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。 ② CSR 調達方針の周知と、環境への配慮が弱い購入先へは取組を働きかける。	① データ、保証書の入手（随時） ② 取引先（副資材、消耗品関係）20 社へ CSR アンケート（環境関係含む）を実施し、フィードバックを行う。
3	大気、水質、土壌汚染等の管理を強化し、生物多様性の維持に努める。	新たな環境汚染や健康被害を引き起こさず、生物多様性の維持のために重大な環境法令違反をおこさない。	重大な環境法令違反０件
4	省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。	① 省エネルギー （電気・都市ガスの削減）	①-1 南本町工場 エネルギー量 kL 又はエネルギー量 kL／加工高 過去実績比　1%削減 ②-2 中田原・中田原西工場 エネルギー量 kL 又はエネルギー量 kL／加工高 過去実績比　1%削減
		② ゼロエミッションの達成 2050 年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを行う。	② リサイクル率 95%以上の維持
		③ 産業廃棄物総排出量の削減 2050年度までに2020年度産業廃棄物排出量の 30% 削減を行う（リサイクル処理を含む）。	③ 2020 年度の排出物量 / 加工高の 5% 削減
5	再生可能エネルギー、再生資源を投入し、温室効果ガスの抑制と循環型社会の形成に貢献する。	CO_2 排出量の削減 2030 年までにカーボンニュートラルを達成する。	2020 年度の CO_2 排出量の 60%削減
6	環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、持続可能な社会を目指して責任ある行動を遂行できるよう啓発する。	① ISO 一般教育（定期 / 異動者 / 雇入れ）（動機付け教育）の実施 ② 特定業務従事者教育の実施 ③ 雇入れ又は異動者教育訓練の実施（環境特別教育や各グループ独自の教育など）	①（定期）は年 1 回実施、（異動者）（雇入れ）は異動時 / 雇入れ時に随時実施 ② 年 1 回実施 ③ 該当時実施
7	その他の環境活動	① 環境ボランティア活動の実施 ② 環境報告書の発行	① 年 1 回以上 ② 10 月ホームページ掲載

環境負荷物軽減の推進

Ⅰ. CO_2 排出量

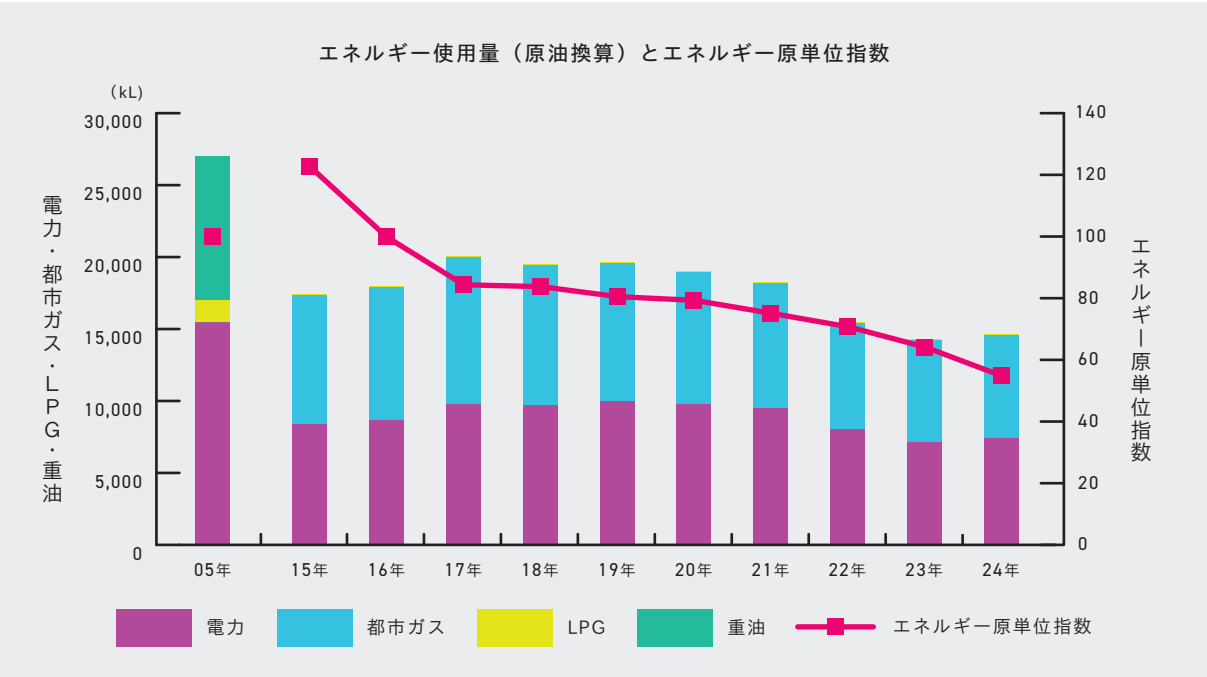
CO_2 排出量は昨年度から 3,151t-CO_2 を削減しています。2030 年度に、CO_2 の直接排出（Scope1）と間接排出（Scope2）についてカーボンニュートラルを達成するために、再生エネルギーとカーボンニュートラルガスを使用すると共に、エネルギー使用効率の取り組みを継続しています。



Ⅱ. エネルギー使用量

昨年度から電力 417kL 増加し、都市ガスは 32kL 使用量を削減しています。エネルギー原単位指数* は、2005年の基準100と比較すると55 ポイントとなり、昨年度より 9 ポイント減少しています。

* エネルギー原単位指数：基準年（2005年）の原単位を基準として、経年の原単位を指数化

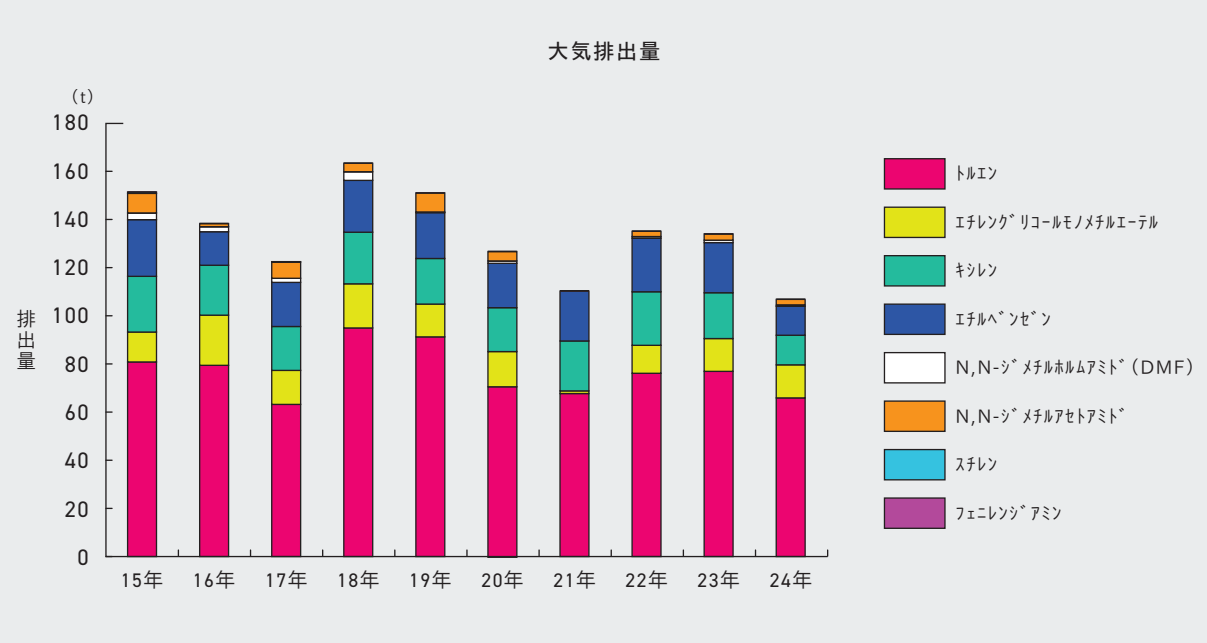


Ⅲ. PRTR 法対象化学物質

PRTR 第一種指定化学物質の大気排出量（届出対象分）は、前年度比べ約 25% 減の107t でした。

単位：t

政令番号	物質名	取扱量	移動量	大気排出量
53	エチルベンゼン	21.8	4.9	12.4
58	エチレングリコールモノメチルエーテル	26.8	5.7	13.4
80	キシレン	21.7	4.9	12.4
213	N,N- ジメチルアセトアミド	12.2	0.8	2.5
232	N,N- ジメチルホルムアミド	2.4	0.1	0.5
300	トルエン	157.2	24.8	65.8
352	フタル酸ジアリル	1.6	0.5	0.0



PRTR（Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度）とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

Ⅳ. 水質汚濁物質の対策

公共用水域に排出される特定施設に関わる水質汚濁物質は、すべて適正な処理を施した後、排水しております。今後も定められた監視と測定を行い、排水基準を順守していきます。

Ⅴ. 土壌汚染の対策

地下水基準値を超過したエリアでは、揚水曝気浄化処理を行い、還元分解され汚染濃度範囲が縮小するなどの浄化効果を確認しています。引き続き、行政の指導のもと、敷地外部への影響についてもモニタリングするなど、適正に対策を推進していきます。

また、今後実施する事業所の統廃合や再構築等での土地の形質変更時には、改正土壌汚染対策法に基づき、届出・調査・報告を適正に実施するとともに、調査結果の情報開示と汚染が確認された場合の対策に努めます。

廃棄物の管理

Ⅰ．産業廃棄物の発生量

産業廃棄物の発生量は、1,467t でした。また、産業廃棄物の内訳は、廃プラスチック類 60.1%、廃油 16.5%、木くず 6.7%、廃酸 5.3%、ガラスくず 2.7%、金属くず 0.8%、その他 7.9%でした。

また、廃プラスチック排出量は昨年度から 5.5%増加しています。

Ⅱ．産業廃棄物のリサイクル化

開発・製造に関わる産業廃棄物のリサイクル率は94.8%でした。なお、アリサワファイバーグラスを含めた産業廃棄物のリサイクル率は、95.7%となっており、産業廃棄物の処理方法の内訳は、サーマルリサイクル 66.3%、マテリアルリサイクル 29.4%、埋立処理 4.3%でした。※1

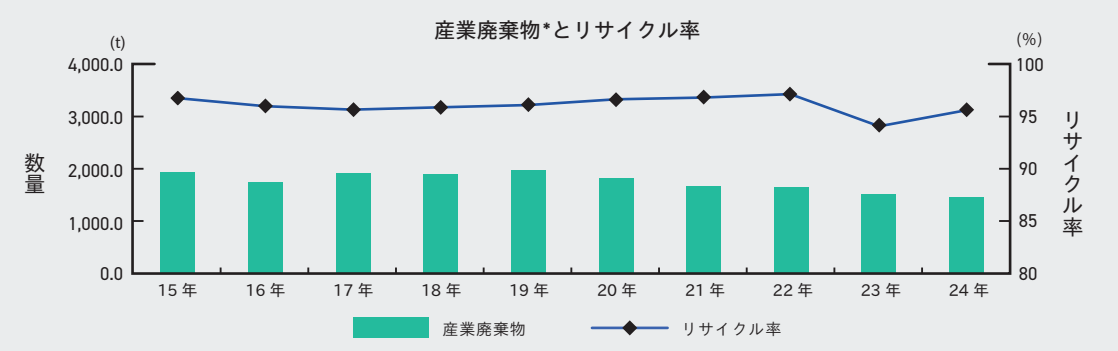
また、2050 年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを達成するために、積極的なリサイクル化（サーマルリサイクルまたはマテリアルリサイクル）を継続して進めています。

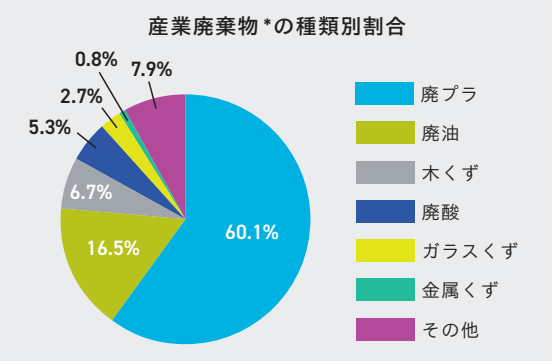
※1：当社リサイクル処理定義

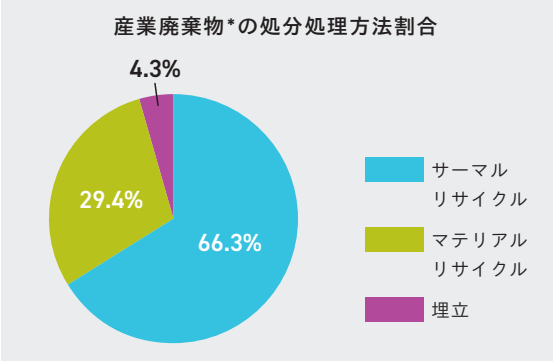
サーマルリサイクル	産業廃棄物が焼却処理時に熱利用されているリサイクル方法、または、固形燃料化（RPF 等）処理されているリサイクル方法
マテリアルリサイクル	産業廃棄物が処理業者にて化学処理以外の処理後に他の製品や別の材料として再利用されているリサイクル方法
ケミカルリサイクル	産業廃棄物が処理業者にて化学処理後に化学原料として再生されているリサイクル方法

Ⅲ．産業廃棄物の処理委託

当社は、産業廃棄物の処理を処分業者に委託しています。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）」などの法令に従い、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を適切に交付し、最終処分先に至るまでのプロセスを確認しています。また、処分業者へは現地確認（書類審査を含む）を随時実施し、当社の排出物が適正に処分されていることを確認しています。





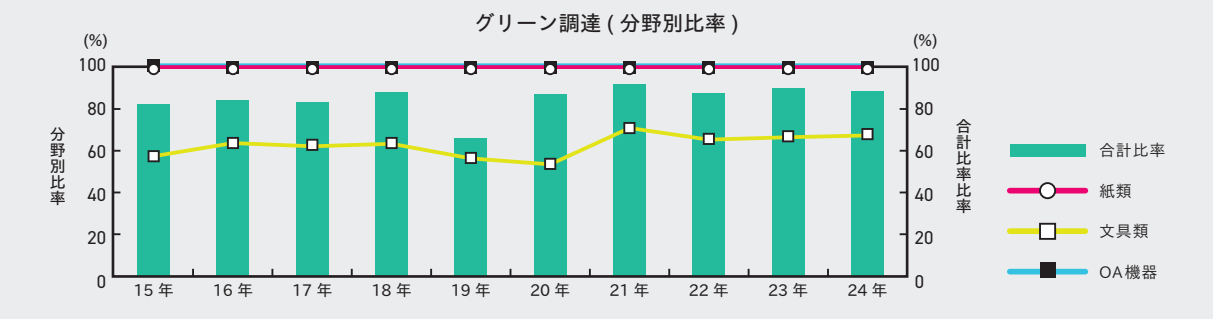


*アリサワファイバーグラスを含めた産業廃棄物

グリーン調達

当社は、環境負荷が少ない経済活動の実現に向けグリーン調達*を推進しています。紙、文具、OA機器における2024 年度のグリーン購入比率は、金額ベースで 88.3%でした。

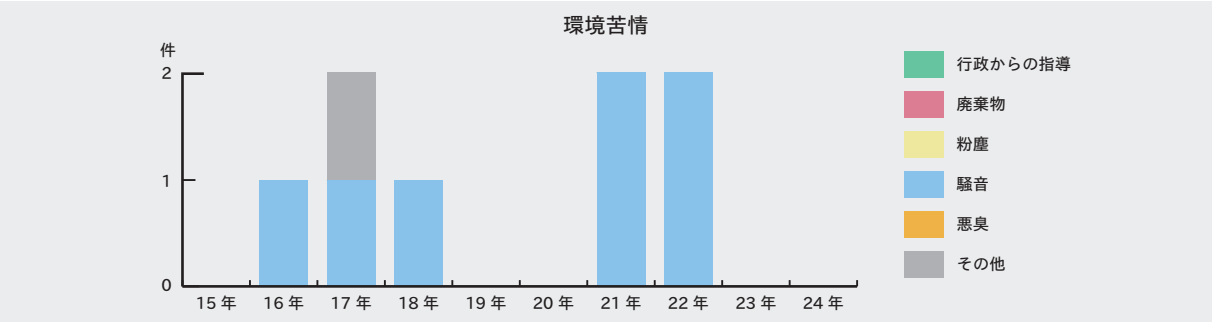
*グリーン購入法適合、エコマーク、グリーンマーク、GPN-データベース掲載、R マークのいずれかに該当する製品



環境苦情

2024年度の環境苦情の発生はありませんでした。

環境問題に関する苦情については、今後も関係者の皆さまとコミュニケーションを図り、機敏に対応していきます。



環境活動

第 32 回青田川クリーン作戦に参加(2024 年 6 月 20 日)

当社は、2007 年度から上越市の環境保全団体「青田川を愛する会」主催の環境美化活動に企業会員として参加しており、2024年度も同活動に参加しました。青田川は南本町工場の近くを流れる川で、同会が主体となって景観維持・水質改善をはじめとする自然環境保全に取り組んでいます。

廃材自由工作 - 小学生対象 - (2024 年 8 月 22 日)

従業員の小学生のお子さまを対象に、当社から排出される廃材を活用した工作イベントを開催しました。まず初めに当社のSDGsへの取り組みについて学んでいただいた後、子どもたちは自由な発想で、いきいきと楽しみながら工作に取り組んでいました。

ecoウォークラリー開催 (2024 年 11 月 18 日)

地域のゴミ拾いをしながらウォークラリーを開催しました。社員 251名が参加し、102kgのゴミを回収しました。

環境情報の開示 2024年度事業所別環境データ

[南本町工場]

◆水質（排水口 No.10…青田川排水口）

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8～8.6	7.4
BOD	mg/L	60	20.3
SS	mg/L	60	5.4

◆大気

	項目	単位	排出基準	測定結果
ボイラー	ばいじん	g/㎥N	0.10未満	0.01未満
	NOx	ppm	150未満	22～58

[中田原西工場]

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A路線	pH	-	5.7超～8.7未満	7.3
	BOD	mg/L	300未満	17.4
	SS	mg/L	300未満	3.6
B路線	pH	-	5.7超～8.7未満	＊＊
	BOD	mg/L	300未満	＊＊
	SS	mg/L	300未満	＊＊
C路線	pH	-	5.7超～8.7未満	＊＊
	BOD	mg/L	300未満	＊＊
	SS	mg/L	300未満	＊＊
D路線	pH	-	5.7超～8.7未満	＊＊
	BOD	mg/L	300未満	＊＊
	SS	mg/L	300未満	＊＊

[中田原工場]

◆水質（排水口 No.2）

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8～8.6	7.6
BOD	mg/L	25	1.6
SS	mg/L	50	6.3

◆水質（排水口 No.7）

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8～8.6	7.3
BOD	mg/L	25	3.0
SS	mg/L	50	6.4

◆大気

	項目	単位	排出基準	測定結果
ボイラー	ばいじん	g/㎥N	0.10未満	＊
	NOx	ppm	150未満	40～65

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A路線	pH	-	5.7超～8.7未満	7.8
	BOD	mg/L	300未満	20.8
	SS	mg/L	300未満	17.8
B路線	pH	-	5.7超～8.7未満	＊＊
	BOD	mg/L	300未満	＊＊
	SS	mg/L	300未満	＊＊
C路線	pH	-	5.7超～8.7未満	＊＊
	BOD	mg/L	300未満	＊＊
	SS	mg/L	300未満	＊＊
D路線	pH	-	5.7超～8.7未満	6.6
	BOD	mg/L	300未満	93.5
	SS	mg/L	300未満	18.7

＊測定年度対象外

＊＊流水量不足のため測定不可

検査機関：一般財団法人 上越環境科学センター

会社概要

社　　名	株式会社 有沢製作所
代 表 者	代表取締役社長　有沢 悠太
創　　業	1909 年（明治 42 年）4 月 8 日
設　　立	1949 年（昭和 24 年）7 月 1 日
資 本 金	7,880 百万円
売 上 高	単体：30,268 百万円（連結：49,816 百万円）
本　　社	〒943-8610　新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号 〒111-0052　東京都台東区柳橋 2 丁目 12 番 5 号
事業内容	電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料、ディスプレイ材料などの製造・販売
工　　場	南本町工場　新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号 中田原工場　新潟県上越市大字中田原 1 番地 中田原西工場　新潟県上越市大字中田原 55 番地

関連会社

社　　名	アリサワファイバーグラス株式会社
本　　社	〒943-8610　新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号
事業内容	ガラスクロス、ガラステープの製造

社　　名	有沢総業株式会社
本　　社	〒943-8610　新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号
事業内容	倉庫管理・物流業務全般

ISO14001 認証（認証機関：ペリー・ジョンソン・レジストラー inc.）

組織の名称	株式会社 有沢製作所
所 在 地	〒943-8610　新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号
対象事業所	南本町工場 (含むアリサワファイバーグラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社) 中田原工場 (含む敷地内有沢総業株式会社) 中田原西工場 (含む敷地内有沢総業株式会社)
適用規格	ISO14001:2015
登 録 日	2007 年 6 月 18 日